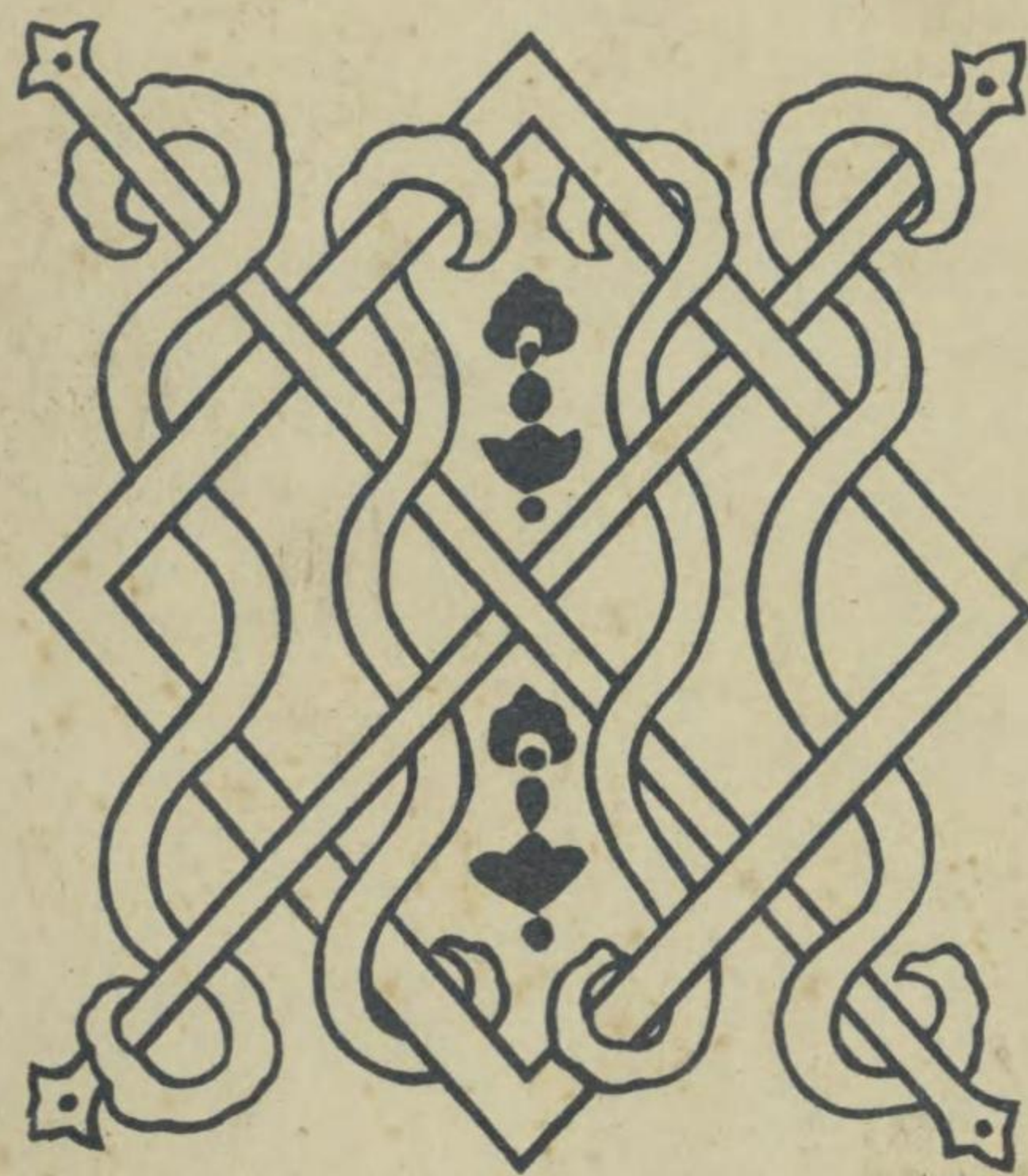


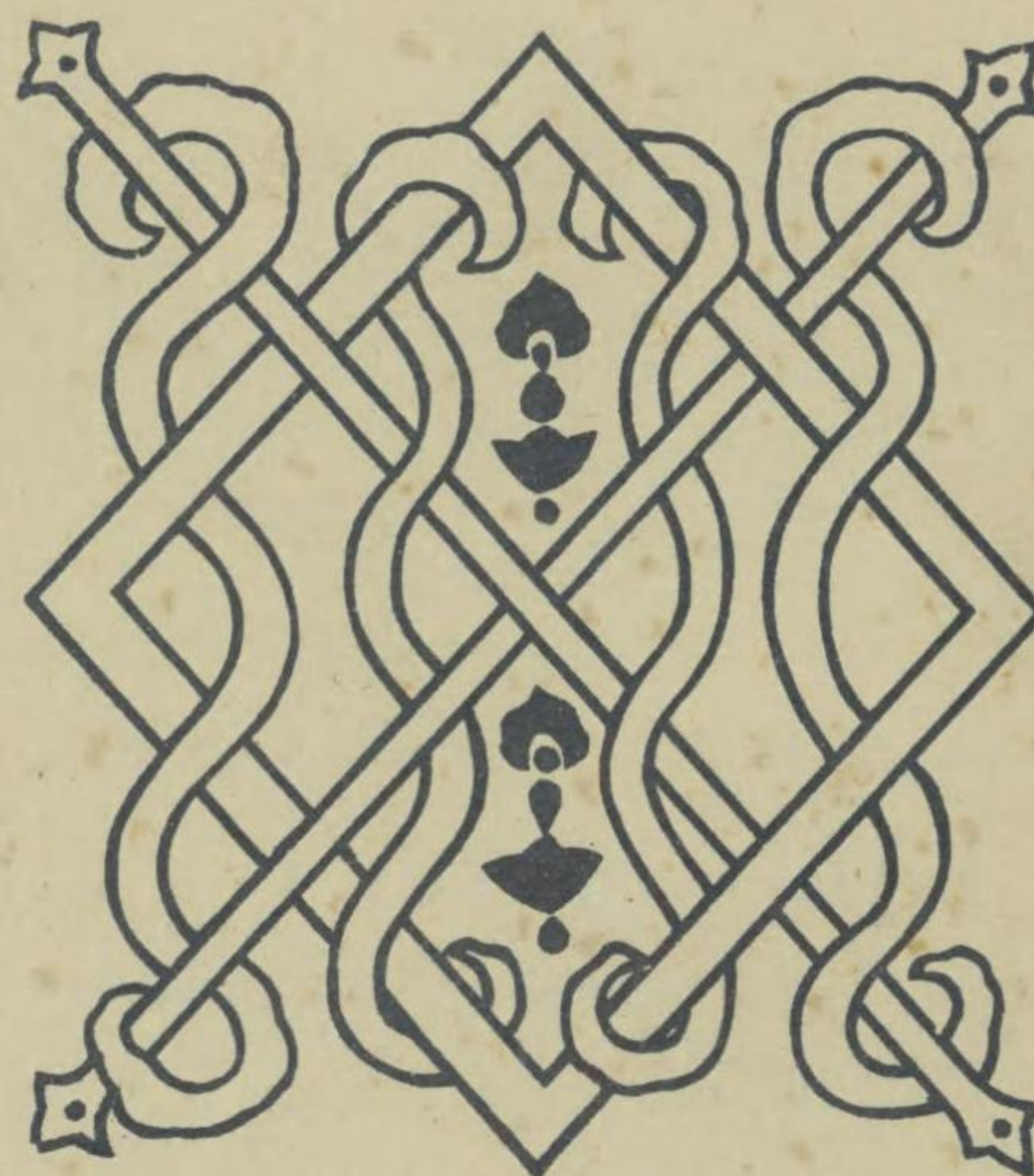
Collection of Songs for
Primary Schools and Homes.

童謠唱歌名曲全集

田村虎藏・福井直秋・小松耕輔・共編



第四卷



東京文社刊行

EDITION · KYOBUNSHA · TOKYO

9. 郊外遠足

蘆田 惠之助 歌
獨 國 風 曲

爽快に [♩=100-112]

犬 童 球 溪 歌
外 國 曲

ヤ ナ キ ニ
し ゅ ん そ う

1. ヒ ゴ ト コ モ ル マ ナ ビ ヤ ノ セ マ キ ウ チ ヲ タ チ イ デ ラ ス
2. か ろ く か を る は る か せ に そ で を ふ か れ の べ ゆ け ば か

ニ カ ヨ フ
ん ぐ る ま

ミ レ サ ケ ル ハ ル ノ ノ ニ ケ フ ノ ヒ ト ヒ オ ク ラ ナ ン
す む そ ら に と り は な き る め る は な に て ふ は ま ふ

シ ラ ヌ
た れ の

オ モ フ ド チ テ ヲ ト リ テ ヒ ネ モ ス ニ ア ソ ビ ナ バ ヒ
め に み ゆ る は な の い ろ み み に き く と り の こ る す

ユ ク
し て

ゴ ロ セ マ キ リ ガ ム ネ モ イ ト モ ヒ ロ ク ナ リ ヌ ベ シ
べ て ひ と の こ こ ろ を ば き よ く あ ら ふ も の の み ぞ

春こそ来ぬれ。
 二 池の水うち解けて
 水の音も 寒からず
 柳の糸 靡きつゝ
 堤に 垂れぬ
 いさ今日は 庭の木に
 来て鳴く 鶯待たん
 楽しし 初音聞く
 時節は 今ぞ。

四 春の神
 藤村直 秋作曲
 一 春を知る 春の神
 わが時来たりと 羽車召し
 寒き空かけり 過ぎませば
 雲 止み 雲は消え
 霞のまがひに 雲雀は啼き
 みくるまのあとに 春のどか。
 二 春を知る 春の神

七 明日は日曜
 中學唱歌
 一 明日は日曜 樂しき日
 勇む心に うちみれば
 常には暗き このランプ
 今宵ばかりは 光るなり。
 二 明日は日曜 樂しき日
 一週間の うさはらし
 山に遊ばゞ 兎がり

董咲ける 春の野に
 今日ひとひ 送らなん
 思ふどち 手をとりにて
 ひねもすに 遊びなば
 ひごろせまき わが胸も
 いともひろく なりぬべし。
 二 かくくかをる 春風に
 袖を吹かれ 野邊ゆけば
 かすむ空に 鳥は啼き
 笑める花に 蝶は舞ふ

目に見ゆる 花の色
 耳に聞く 鳥の聲
 すべて人の 心をば
 清く洗ふ もののみぞ。

一〇 楊子江

佐々木信綱歌
 西班牙風曲

一 水源遙に 水量多く
 世界に冠たる 大河の流
 歴史は幾たび 變遷すとも
 大なる流は 昔のまゝに。
 二 長さは三千 三百哩
 洞庭・鄱陽の 水をも合せ
 重慶・漢口 江寧なども
 皆この流に 沿ひたる都會。
 三 南北二つに 支那をば分ち
 四百餘州の 死活を制す
 歴史は幾たび 變遷すとも
 汝は變らじ 大なる流。

一一 駒の蹄

中學唱歌

一 行け 男兒 日本男兒
 學のおくがは いづこがかぎり
 奮發勉勵 必得成功
 駒の蹄の むかふがまゝに。
 二 行け 男兒 日本男兒
 義勇のほまれを いづこにあげむ
 東西南北 報國盡忠
 駒の蹄の いたるがまゝに。
 三 行け 男兒 日本男兒
 墳墓の土地を いづこといはむ
 六大洲中 縦横無盡
 駒の蹄の とどまるところ。

一二 樹の間の舞

小林愛雄歌
 弘田龍太郎曲

一 樹蔭に をどれば
 そよ風の おとづれ来て
 うごく袖 小さき花
 露は散る五月の宵 雲もなし
 あゝ葉蔭に舞へば 胸晴れて
 揺るゝ裾に 歌を聴く。
 二 樹の間に をどれば
 照る星の 輝やき来て
 蘇へる 小さき胸
 百合の咲く五月の宵 雲もなし
 あゝ葉蔭に舞へば 薄月の
 のぼる森に 聲を聴く。

一三 舞踏

吉丸一昌歌
 外國曲

一 靡かす袖 雪をかへし
 くるりく あな面白や
 かへす袂 匂ひこぼれ
 ひらりく あはれ面白や
 三保の浦の かの天少女
 こゝに下りて 今立ち舞ふか
 くるりく ひらりく
 あなおもしろ。
 二 足の拍子 調べに合ひ
 くるりく あな面白や
 かさす玉手 打ち振る眞手
 ひらりく あはれ面白や
 通ふ雲の路 吹きとちて
 留めしものか このまひ姿
 くるりく ひらりく
 あなおもしろ。

一四 才女

小學唱歌集

一 かきながせる 筆のあやに
 染めし紫 世々あせす
 ゆかりの色 ことばの花

たくひもあらじ その功。
 二 まきあげたる 小簾のひまに
 君の心も しら雪や
 廬山の峰 遺愛の鐘
 月に見るごとき その風情。

一五 朝

八波則吉閑歌
 平岡均之曲

一 すがくし 朝風
 ほのくと 明る空
 草の葉の 露ふみて
 賤の男は 山にゆく
 木の上の 鳥のうた
 白銀の 潮の響き
 たのしたのし 朝の小徑よ。
 二 こゝちよき 朝風
 うらくと 晴る空
 工場には 汽笛鳴り
 町へゆく 荷車の音
 かるげなる 轍の音
 畑中に 消えゆきぬ
 たのしし 朝の野道よ。
 三 みづくし 朝空
 ほがらかに 明る村
 學び舎の 屋根のうへ
 金色に 日は光る
 雞は時つくり 子供らは學校に
 たのしし 朝の村道。

一六 故郷

鳥居悦歌
 ハニツチニ曲

一 梧桐の梢に 蟬の聲高し
 故郷に歸らん 夏休來たる
 何よりの土産は すこやかか體
 去歲よりの話は 一月も盡きじ。
 二 柴橋を渡るや 里川の岸邊
 櫟原隔てゝ 我が家ぞ見ゆる

我が胸は躍りて 我が足は進む
 門に倚り母上 歸りをや待たん。

一七 海

大和田建樹歌
 獨逸風曲

一 激しき夜嵐 吹き巻く海原。
 二 荒浪猛りて とどろく雷。
 三 星なき暗の夜 雪散る大空。

一八 秋の實り

大和田建樹歌
 米國風曲

一 八束の稻 穂に出でゝ
 豊けき色 田に満ちぬ。
 二 黄金の波 うち寄せて
 樂しやげに 今年こそ。
 三 鳴子の音 忙しげに
 刈入れ時 近づきぬ。

一九 誠の道

桑田春風歌
 英國風曲

一 曇らぬ心の 鏡に照らして
 誠の道をば たどれよ世人。
 二 邪なること ゆめゆめ思はず
 眞心盡せば 世の中安し。
 三 迷はず進めよ 我等が踏むべき
 道こそ一すぢ たゞこれ誠。

二〇 嵐山

上島信三郎歌
 井上武士曲

(春) 櫻の花の 嵐山
 今をさかりと 咲きみちて
 峰谷々の うつくしさ
 をりからさつと 花吹雪
 ひらりと川舟の
 花見の人に 散りかゝる。
 (夏) 緑したる 常磐木の

一 春のやよひ

小學唱歌集

- 一 春の彌生の あけぼのに 四方の山邊を 見渡せば 花盛りかも 白雲の かゝらぬ峰こそ なかりけれ。
- 二 花桶も 匂ふなり 軒のあやめも 香るなり 夕暮れさまの 五月雨に 山時鳥 なふるなり。
- 三 秋の始に なりぬれば 今年も半ばは 過ぎにけり わが夜更けゆく 月影の 傾く見るこそ あはれなれ。
- 四 冬の夜寒の 朝ぼらけ 契りし山路は 雪深し 心のあとは つかねども 思ひやるこそ あはれなれ。

二 初 春

大和田建樹歌

- 一 遠き山の 雲消えて 霞む日影 あたゝかに 蕾とけし 梅の花
- 三つ 四つ 五つ いざ今日は 野に出で、 落ち来る 雲雀を逐はん 嬉し〜 わが待ちし 春こそ 来ぬれ。
- 二 池の水 うち解けて 水の音も 寒からず 柳の糸 靡きつゝ 堤に 垂れぬ いざ今日は 庭の木に 来て鳴く 鶯待たん 楽し〜 初音聞く 時節は 今ぞ。

三 春の休日

今村九種歌

- 一 春来れば 鳴かざりし鳥も来鳴き 冬ごもり 咲かざりし花も咲き 四方の景色も やはらぎぬ。
- (合唱) いざ〜友々 楽しき春は 今日ぞ今日ぞ ことにたのしき。
- 二 見渡せば 外山にも霞かゝり 八千草の花の上に 胡蝶舞ひ 四方の景色も 春めきぬ。
- (合唱) いざ〜友々 たのしき春は 今日ぞ今日ぞ ことに楽しき。
- 三 いざ友よ うちつれて山に登り 谷わたり 鳥を聞き 花を見む 風に袂を 曳かれつゝ。
- (合唱) いざ〜友々 たのしき春は 今日ぞ今日ぞ ことに楽しき。
- 四 見てもみや 語るべき吉野の花 楽しきを 摘草の籠にそへ 春の休日は 野に山に。
- (合唱) いざ〜友ども 楽しき春は 今日ぞ今日ぞ ことに楽しき。

四 春の神

藤村直秋作歌

- 一 春を知る 春の神 わが時来たりと 羽車召し 寒き空かけり 過ぎませば 雲止み 雲は消え 霞のまがひに 雲雀は啼き みるまのあとは 春のどか。
- 二 春を知る 春の神

五 わが身の幸

中村幸次歌

- 一 心に望みし 學びの園に 入り立つ今日こそ うれしき極み 師の御恵と 友の情に たのしく今より いそしみゆかむ。
- 二 教への草叢 よし茂くとも 學びの林の よし深くとも たゆまず分けむ やすます行かむ 桂の枝をば 折りとるまでは。

六 懐 友

旗野十一郎歌

- 一 木の芽も春の 花咲くには 眺にうかぶ おもひはなに むつびし友と 歌よみかはし あひ見し色 あゝこの色。
- 二 紅葉も秋の 月照る庭 ながめに浮ぶ 思ひはなに 愛でにし人と 語合ひながら あひ見し影 あゝこの影。

七 明日は日曜

中學唱歌

- 一 明日は日曜 楽しき日 勇む心に うちみれば 常には暗き このランプ 今宵ばかりは 光るなり。
- 二 明日は日曜 楽しき日 一週間の うさはらし 山に遊ばゞ 鬼がり

八 郵便車

蘆田惠之助歌

- 一 長堤十里 霞こめて 柳に見ゆる 春の風 日毎に通ふ 郵便車 長閑けき春を 知らぬ顔に 一筋道を 駆けて行く。
- 二 一望千畝 麥は秀で 春草萌ゆる 田舎道 郵便車 日毎に引きて 通ふは誰が子 誰のために 長閑けき春を よそにして。

九 郊外遠足

大童球溪歌

- 一 日毎こもる 學び舎の せまきうちを 立ち出で、 董咲ける 春の野に 今日のひとつ 送らなん 思ふどち 手をとりにて ひねもすに 遊びなば ひごろせまき わが胸も いたもひろく なりぬべし。
- 二 かくくかをる 春風に 袖を吹かれ 野邊ゆけば かすむ空に 鳥は啼き 笑める花に 蝶は舞ふ

一〇 楊子江

目に見ゆる 花の色 耳に聞く 鳥の聲 すべて人の 心をば 清く洗ふ ものゝみぞ。

一 樹蔭にをどれば

そよ風の おとづれ来て うごく袖 小さき花 露は散る五月の宵 雲もなし あゝ葉蔭に舞へば 胸晴れて 橋るゝ橋て 歌を聴く。

二 たくひもあらじ その功。

まきあげたる 小籬のひまに 君の心も しら雪や 廬山の峰 遺愛の鐘 月に見るごとき その風情。

一七 海

我が胸は躍りて 我が足は進む 門に倚り母上 歸りをや待たん。

大和田建樹歌

昭和七年一月廿一日印刷
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集

第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢



編纂者 田村虎藏
東京市牛込區築土八幡町三一

編纂者 福井直秋
東京市外長崎町荒井一八八四

編纂者 小松耕輔
東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五

發行者 鈴木 芄
東京市神田區淡路町二ノ二

印刷者 單式印刷株式會社
東京市芝區金杉新濱町一二

代表者 和田助一

發行所

東京市神田區淡路町二ノ二
振替口座 東京八三二六番

京文社

電話神田(25) 三三九〇番
三三九二番